

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：一般財団法人 箱根町観光協会

## 事業名称1：SDGs Show Room

サーキュラーエコノミー事業 ～ゼロウェイストに向けた取り組み～

### あらすじ

環境先進観光地箱根として、環境問題を中心としたSDGsに積極的に取り組むことで、年間2,000万人の観光客に様々なSDGsの取組を体験してもらい、帰宅後その体験を実生活で実践することで、SDGsに寄与する

本事業の概要：箱根町の事業者から排出される廃棄物を、発電の原料として提供また有価化することで廃棄量を削減させ、ゼロウェイストタウンを目指す

事業から期待できる効果：廃棄物の有価化、および多くの事業者で取り組むことによる物流コストの削減により、事業者のコストアップなく、サステナブルなスキームでの実施が可能

また箱根全体で取り組んでいることを周知することで、「環境先進観光地箱根」のブランド向上になり、観光客から選ばれる観光地の選択肢となる

### ストーリー

箱根町は11,000人の人口に対し、年間2,000万人の観光客を受け入れており、多くの観光客が出すゴミ処理への経費が大きな課題となっている。（箱根町の事業系ごみの割合：8割、通常の市町村：2割）

また2年後には箱根町の廃棄物焼却方法が変更となり排出量の削減が急務である（箱根町・湯河原町・真鶴町合同の焼却炉を利用し、その費用は排出量により按分される）

また欧米豪からの観光客はSDGsへの関心が高く、もはやここにとりくんでいない観光地はその選択肢となりえず、その対応は急務である。

箱根町の事業所から出る食品残渣による発電、段ボール等資源になりうる廃棄物の有価化検討、将来的に多くの事業所が参画することでスケールメリットを生かした物流費用の削減、廃棄量の減少によって削減された箱根町のゴミ処理の費用を補助金に充当などにより、事業者が負担することのない仕組みを構築する。

### 事業の骨子

### 現時点で想定される課題・ボトルネック

①ありたい未来	SDGs Show Room ゼロウェイストタウン サステナブルな仕組みを構築	現時点で想定される課題・ボトルネック
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11,000人の人口に対し、年間2,000万人の観光客を受け入れている。多くの観光客が出すゴミ処理への経費が大きな課題である（事業系8割、財政赤字の主要因）</li> <li>・2年後には箱根町の廃棄物焼却方法が変更となり排出量の削減が急務である（箱根町・湯河原町・真鶴町合同の焼却炉を利用し、その費用は排出量により按分される）</li> <li>・取組開始時において参画事業者のコストメリットが表れにくい。</li> </ul>	ステークホルダーの多さによる合意形成の難しさ。 事業者間による温度差 現時点（総論）では方向に大きな差は無いが、具体を詰めていく中（各論）で考えの不一致が発生する可能性あり。
③なぜこの事業をやるのか（Why）	選ばれる観光地になるためには、SDGsに資する取組みは急務。 この事業によってコストアップなしによる廃棄量削減、ゼロウェイストを目指す。	
④地域資源	2,000万人の観光客が出す資源（従来はゴミ） 豊富な観光資源、観光業がメイン産業である特性、合意形成の土壌の存在（箱根DMO）	

